夕刊
磐城新聞
三月二日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通欄金六拾錢 特殊欄金九拾錢（五號十二字詰一行一回）（場所指定一行貳錢增）
編輯印刷發行人 [illegible]
福島縣石城郡平町三町目十六番地
發行所 磐城新聞會社
登錄交換略號（タイラ・イワキ）平局私書函第十二號
電話五六四番
〔日曜祭日翌日休刊〕

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

二十六

二桁割練習表（其の二）

1777777778÷18=98765
4321
2666666667÷27=98765
4321
3555555556÷36=98765
4321
4444444445÷45=98765
4321
5333333331÷54=98765
4321
6222222223÷63=98765
4321
7111111112÷72=98765
4321
8000000001÷81=98765
4321
9777777779÷99=98765
4321

法三桁以上の割算

法三桁のも三桁の割算の方法と同じであり、只法と商を掛け合せて實より引く回數が一回多くなるだけである

法數と商を掛け合せながら順次引き下る時指の止る桁が次に引く時の十位である但し二五10　四五20　六五30　五八40　など丶引く時は、引く末位が零であるから一位は一桁飛んで引く事を忘れてはならぬ

例題一

13104÷234=56

計算法（實一三一〇四、法二三四）

一、法二三四と實一三一を見合せ直ぐ上に商五を立てゝ、法二と商五を掛け合せ2×5＝10を引く

盤面五〇三一〇四

次に法三と商五を掛け3×5＝15を引く

盤面五〇一六〇四

次に法四と商五を掛け4×5＝20を引く

盤面五〇一四〇四

二、法二三四と實一四〇を見合せ直ぐ上に六を立て法二と商六を掛け2×6＝12を引く

盤面五六〇二〇四

次に法三と商六を見合せ4×6＝24を引く

盤面五六〇〇二四

次に法四と商六を掛け合せ4×6＝24を引く、答五六となる

例題二

81075÷345=235

計算法（實八一〇七五、法三四五）

一、法三四五と實八一〇を見合せ一桁飛んで商二を立てる（實が同じ桁迄見て多いから）法三と商二を見合せ3×2＝6を引く

盤面二〇二一〇七五

次に法四と商二を見合せ4×2＝8を引く

次に法五と商二を見合せ5×2＝10を引く

盤面二三〇三〇七五

二、法三四五と實一二〇を見合せ實少いから直ぐ上に商三を立てゝ法三と商三を見合せ3×3＝9を引く

バン面二三〇三〇七五

次に法四と商三を見合せ4×3＝12を引く

盤面二三〇一八七五

次に法五と商三を見合せ5×3＝15を引く

盤面二三〇一七五

三、法三四五と實一七二を見合せ實少いから直ぐ上に商五を立てゝ法三と商五を見合せ3×5＝15を引く

次に法四と商五を見合せ4×5＝20を引く

盤面二三五〇〇二五を引く

次に法五と商五を見合せ5×5＝25を引く

バン面二三五となる、即ち答である

『八溝登山吟』

下

木村源正

○熔岩を崩し徑にちりしきて落葉はふかく谷を覆へり
○野火止の杉さへあらぬ北山は赤はだかなるさまぞ恐ろし
○山深く水かれがれの谿を來る丸太つらねし橋を渡る
○倒れ木を幾度こえて來りけむ徑なき澤を猶ふかく入る
○登りつめし峠の上にしましくは茜さし添ふ山を見てをり

隨筆

鳥二題

島田忠夫

1 野鳥

昨春亡くなられた森田恒友畫伯は、大へん野鳥を好まれた。雉子、山鳥、山鳩などの類で、さういふ野鳥が、嚴冬や春の野にこもつてゐるさまも勿論好まれたであらうし、飛び立つさまは好個の畫材にもなつたでありませう。しかし、私の知つてゐるのは、これらの野鳥を取わけ珍重する恒友畫伯の味覺であつた

恒友畫伯は、みづらから厨におりて、野鳥を割かれた極めて簡朴な生活を、東都の中で續けてゐた畫伯には野鳥を割きに厨にたつ時、恰も故郷の草家の軒下に、庖丁を使ふ樣な親しみ心ゝ湧いて、實に樂しかつたのだと、斯う思へるのである

2 冬山

いつか暫く私が東北に歸住してゐた頃、川前の谿谷地方へ、雉子撃ちに行つた早朝、雪の深い山岨直を二里餘もたどつて、善吉といふ老爺の家まで行き、そこで温まつて、雉子を撃ちに出かけた。一月末頃でもあつたらうか。もちろん、この善吉といふ山の爺と一緒である

山で雪になつた。道が直ぐ埋れる。兎が走る。擊つと外れる。溪の凍りあがつた、靜寂な冬山である。終日かゝつて、善吉爺は、かなり美事な山鳥を一羽擊つた。私は雛のやうな野鳩ひとつである

この善吉爺の擊つた山鳥は、小包便で、森田恒友畫伯へあてて送つた

社會の今日

3月3日

△井伊大老櫻田門外に斃る（萬延元）△白川軍司令官停戰命令を發す△上海に於ける英艦ケント號で日支停戰に關する豫備會議開かる（昭和七）△日支事變第六回論功行賞發表△三陸地方大震大津波、慘死千五百餘名（同八）

○

親も子も同じ飲手や桃の酒

傘　下

あたゝかき春の光となりにけり馬車に積み行く粉袋ひかる

馬杉　苔作

講談

浪人長屋

(27)

日岐武志作
月草道子畫

燒け火ばし

猪口は、お鈴の髮のあたりをかすめ、次の部屋へ飛んで、先刻の枕元の煙草盆にかちッと當って二つにこはれた

お鈴は、はッとした

『何を、そんなに怒つてんのよお前さんの氣にさわるやうなことを、した覺えはないけど……』

『無に？』

お鈴のかほをのぞき見るやうにして言つた

『ないよ、なんにもないわよ』

『有らァ』

『何がよ、いつて下さいな』

どんな悪いことをしたつていふのさ』

『ふン』

と、鼻で苦くあしらつて

『お前えの、胸にきいてみるがいゝさ』

『お酒を、のまなかつたのが、氣にさわつたんですの』

『お鈴ッ』

と、甚吉は、いきなり片立膝して、火箸をぎゆつと握りしめてゐた

『白ばつくれるのもてえげえにしやがれッ、俺の眼をごまかさうなんて大違ひだてめえは、あの助平野郞にゆるしたんだらうッ』

『まあァ、どんでもないお前さんの感違ひですよ、誰があんな奴に……』

『本氣でそんな白を切るッてんだなッ』

『お前さんも野暮だよ。人にあんないやなことを無理にさせてをきながら、そんな疑ひをおこすなんてそんなに心配だつたらはなつからあんな恐ろしいことを、女房にさせなければいゝぢやないか』

『なにッもう一ぺんいつてみろッ』

『ねゝえ何べんでもいふわだいいち、あたしが寢るとすぐ、お前さんが飛びこんで來たぢやないか、よく考へてみておくれよ、とんでもない』

お鈴はくやしさにぷいと横を向いた

——それも、そうかも知れないと思つたが、一旦おこりだした甚吉の腹の虫がおさまらぬ

甚吉はいま〳〵しげに、お鈴の横顔をにらんだ

——あの白い顔で、男をだましたんだ……

むら〳〵と、やッぱり妬心が燃えた

——あの、白い肌をやつ裂きにしてしめねてえッ

ふと、お鈴の横顔がいつの間にか小花の顏に變つて見えた……

——畜生ッ

顏が、すさまじく、ひきつッた眼が、らん〳〵と血走つた

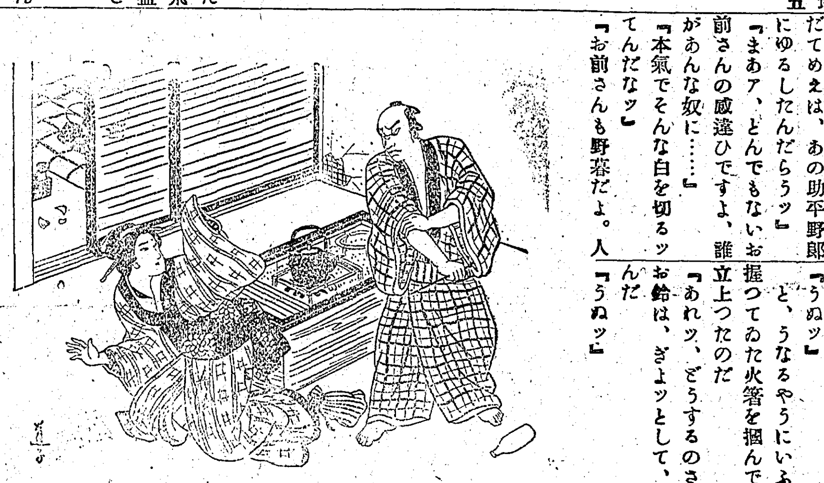
『うぬッ』

と、うなるやうにいふと握つてゐた火箸を掴んで、立上つたのだ

『あれッ、どうするのさ』

お鈴は、ぎよッとして、叫んだ

『うぬッ』



甚吉はたゞ、憎惡に燃えた眼でお鈴をにらみながらぢり〳〵と追つてゆくはづみに、先刻の財布につまづいて前へどさッとのめつた。途端に。

『わッ』

と、悲鳴が、甚吉の口からあがつた

摑んでゐた燒け火箸が、甚吉の眼の下から突きさしてゐた

じユッ！といふやうな音がして煙りが立つた

甚吉は、火箸を引きぬくと、その眼を手でおさへて俯ッ伏した指の間から黒い血がたら〳〵と疊の上に落ちた

廣告

●自信ある製品●
ランドセル
總皮製 80錢より 4圓50錢まで
新學期の洋品は 中野洋品店
平二 電53

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

前田醫院
院長 前田清美
植田町電話一二四

紅茶代用品！
即席しるこ
何處の御家庭でも熱湯さへあれば即席に出來ます
尙一分間炊は一層風味良なります。
在來の晒あんとは全々違ひ日向臭くありません。
小豆の天賦の風味芳香と榮養分を完全保有されて有ます。
一袋正量三七五瓦入（約半人分）金三十錢
贈答品函入 金一圓
製造發賣元 日進堂 平町田町 電話一八六
新草餅を始めました。

派出多忙につき會員募集
平町八幡小路八三
平家政婦々人會
會主 鵜沼隆子
電話（呼）九三番
寄宿の便あり

東京日々新聞、讀賣新聞連載
林不忘—原作・伊藤大輔—監督
大河内傳次郎一生一代の超大作……
オールトーキー
丹下左膳 第一篇 十三卷
舊正十五日より八日間
毎日晝夜二開演
平館
舊正月 掛持出張上映日割…
十五日より 磐城座
十六日より 海盛座
十八日より 綴劇場
二十日より 豐盛座

産科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

本縣ノ郷土民謠生ル
コロムビアレコード
福島音頭……
（其ノ一節）
『ハアー磐城平のツツジヶ岡に咲いたアノ花 流す浮名は新川にソレサツテも平はヨイトコロ 手拍子揃エテヨーイヤサ……』
コロムビア特約店
平四丁目
會田時計店
電・三六三

内外
建築材
建具材
磐城國平町（公園下）
入 阿部材木店
電話四九四番

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切 叮寧…… 料金は極めて低廉です
姙産婦の御家庭 お留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や雜用

派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話（呼）六五二）
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子

石炭
コークス
玉炭
平驛前
阿部石炭商店
電話三七番

産科
婦人科
外科
藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 内木宗八
藥劑師 玄番彌一
平町新川町十九番地
入院隨意 病室完備
木村病院
電話一六四番

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前（電話五五番）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、胡麻油、種油、コールタール、石炭、コークス、カーバイト、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三 八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
◇海上給油及油槽所
久慈濱、大津、平潟

夜間診療
胃腸 性病
内科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

眼科專門
院長 吉田安雄
醫學士 吉田久雄
吉田眼科病院
平町紺屋町 電六八

氣管、食道科、
耳鼻、咽喉科、專門
平町南町（元眞木辯護士跡）
增田耳鼻咽喉科醫院
電話四八二番
（入院隨意）

志願者百七十四名中
三十七名（二割一分）採用さる
本年度郡下海軍兵試驗成績

去月二十七日以降平第三小學校に於て執行された郡下の海軍志願兵試驗は既報の如く昨一日午後二時過ぎ終了、左記三十七名の合格が發表された、志願者數は昨報内譯の百七十四名で昨年の二百四十四名に比し約二割九分の激減で採用率二割一分二六は前年の一割八分八六より可なりの向上を示してゐる

安部正安（泉）吉田二郎（同）八代俊雄（植田）赤津登（同）雫石幸郎（同）小宅進（錦）星彦衛（同）青天目一芳（勿來）佐藤實（同）中野文一（同）雲藤一濟（上遠野）大島勇（平）古畑三男（同）小林濟（同）渡邊文男（夏井）大谷輝雄（豊間）鈴木進（鹿島）鈴木長致（同）高木三郎（小名濱）桃園新太郎（玉川）鈴木源治（同）小泉正夫（同）神田秀四郎（内郷）菊池直義（同）橋本昇（同）本田金一（同）齊藤武夫（同）服部繁（同）磯上實三郎（赤井）野村春巳（江名）鈴木義明（神谷）中野敏男（草野）小島衛（同）佐藤正己（同）宮岡正春（同）五十嵐三郎（四倉）船生勉（大野）

即ち町村別にすると内郷六、神谷、草野各四、植田、勿來、平、玉川各三、泉、錦、鹿島各二、上遠野、夏井、豊間、小名濱、江名、赤井、四倉、大野各一で合格者は農村に多く海岸に少いは奇なる現象である

師父の恩を念へ
健康を保つて入團を待て
水谷兵事課長訓話

試驗終了後縣水谷兵事課長は前記三十七名の合格者に對し左の如き訓話をなした

合格者諸君の喜びは勿論の事、町村の名譽一家の譽此上もない、が此れ皆父母のお蔭師の御恩にあることを忘れてはならぬ。諸君は宜しく此の喜びを父や兄弟に分ち氏神に報告し、猶一層の努力を續け健康に注意して入團の日を待つべきである

檢査官川崎少佐は三年前軍艦木曾で小名濱に來たことあり平へは二度目であるとの事で成績に就て『割合良好でした』と前提して

昨年より率は良いが志願者の減少したことは遺憾である、疾病としては當地方に多いと云はれてゐるトラホームがほとんどなかつたのは嬉しい事である

と語つた

在軍分會評議員會　在郷軍人石城聯合分會評議員會は五日午後一時からマルトモホールに開き豫算決算其他會長以下役員の改選を行ふ

平機關庫稻荷奉祀
けふ祈禱鎭座祭

平機關庫では從業員の安全と無事故を祈願する爲五百圓を醵金、庫内に物見ケ岡稻荷神社分祭の計劃中であつたが今二日午前九時より神官を招いて祈禱鎭座式を擧行した

鎌田青年總會　平町鎌田青年分團春季總會は來る廿日午後六時から開き佐藤分團長の正式就任其他役員の改選を行ふ

師範へ六割七分合格
磐女の驚異的受驗成績

縣女子師範學校本年度入試合格は今二日午前八時發表になつたが二部應試の磐女關係左の如く、受驗二十二名中合格十四名（六割六分六六）の優秀な成績である

佐藤昌、松田豊子、吉田英子、菊地ユキエ、鵜沼スサヨ、松本勇美、大川節子、鈴木秀子、渡邊幸子、筒井米子（以上在學生）荒川節子、草野敏子、田原チヤ子、矢野ユク（以上昨年卒業生）

在軍役員會　在郷軍人平分會では明三日午後七時より藤田會長宅に役員會を開き十日の陸軍記念日行事に就て協議する

平署の劍道講習會
昨日盛況裡に終る

去月廿七日から平署武道場に開いた縣主催の劍道講習會出席者五十一名に對する證書授與式は昨一日擧行、終つて階級試驗を行つたが受驗者は初段十六名、二段十八名の外左記三段五名、四段三名である

（三段）大野—根本名治、草野又藏、平刑務所—門馬駿一郎、好間—矢内朝雄、飯野—須藤辭（四段）平署—高松五郎、平商—淺原吉五郎、高久—藁谷久太郎

永久保君合格　敎員第二次檢定試驗は去る一月廿二日から四日間師範學校で施行、一昨二十八日發表免許狀を授與されたが本郡關係は磐中昨年卒業生好間村永久保良正君である

巡査採用者決定
本郡から僅か三名

來る六日本年第一回の入所生として縣警察官練習所に入所せしむべき者については去る廿六日第二次試驗を行ひ受驗者三百五十八名（平署管内十八名）中より厳選の結果二十六名が合格者と決定したが本郡關係左の如し

（平町鎌田町）堀江久雄、（同二丁目）森合德（大浦村産業組合勤務）根本利雄

弟の仇討試驗突破
首席の堀江君語る

前記巡査試驗に初應募で見事第一位の好成績をもつて合格した平町鎌田町堀江久雄君（二三）は現在平署に使丁の勤めをして居り今早朝八方から受けるお目出度うの聲に包まれながら

『トップで合格するなんて夢にも考へては居なかつた、小學校を出るとから官吏生活に憬れて居たが病氣の爲未だ臥床中にある弟（正男君（二〇））の仇討ち試驗をとつたこの心情は何とも云ひ得ない嬉しさです、早速この喜びを弟に頒けてやらねば……』

と喜びに輝く同君の眼底には一點の白いものが光つてゐた

投檜
投書歡迎

休養日設置是非

◇月一度酒屋さんの休業看板を見るにつけ一層羨望の念を禁じ得られなかつた處へ、舊正僅か二日間のうちに味はつた休養氣分に對して堪らない誘惑を感じた

◇朝は小早くから叩き起されて所謂朝めし前の一と仕事を濟まし、未だ御飯が咽喉を通るか通らぬうちに再び過激な仕事に取かゝらねばならぬ現在の身分

◇外國では休んで働けの主義から日曜日から數へ出して居ると云ふ話しだが能率増進から觀てこれなどは實に結構な事だと思ふ、要は精神的な休養を與へて能率の増進を計らんに盡きて居る

◇吾々小店員に對する休養日の設定!、思ふだに微笑ましい、敢て提唱する次第　（公憤生）

公德心の欠如

◇此間の日曜を利用して公園の南崖に觀梅を試み一驚を喫した、馥郁たる芳香を放つて世人の心情をやはらげねばならぬ筈の梅枝は數本折り取られて傷ましい姿を曝して居る、高さの具合から折取つた木口から推して惡童の所爲とは見取られぬ、一部公德心欠如のやからに警告を發す　（鎌田S生）

傳貧馬健診　石城産馬畜産組合では左記日割で今井技手により傳染性貧血馬千百九十五頭の健診を行ふ

三月五、六、七、八日—三坂、九、十日—澤渡、十二、三日—永戸、十四日—箕輪、十六、七日—上遠野、十八日—磐崎村

國は支拂ふべし
貯金拂戻し紛紜に
郵便局側敗訴

既報—高久村大字下高久字前ノ内農鈴木太吉が永野辯護士を代理人として國（代理人三宅仙臺遞信局長、指定代表人戸石平局長）を相手とり平支部に提起した千五百圓の拂戻し請求訴訟事件の判決は今二日午前十一時から開廷、僞造委任狀を持參した原告次男房吉に前記金額を拂渡したのは局側の落度であるから原告の請求通り國は太吉に千五百圓を支拂ふべしの言渡しあり同三十分閉廷した

三小學校長訓話　平三小學校では來る六日地久節に國旗掲揚式後校長の訓話があると

築港で爆傷
中の作の發破事故

潛水夫の爆死事件があつた許りの江名町中ノ作築港内で又も去る廿七日午後一時半ごろ爆破作業中人夫の同町一一善方廣次（三三）が爆發合圖の役目となり四發發火して一發殘つたが同人は全部發火したものと思ひ込み栓をもつて全部發火の合圖したので人夫の玉川村大原箱崎新平（二九）が何氣なく近寄つた際五メートルのところで最後の一發が爆發し箱崎は左頰及び左額面に全治二週間の裂傷を負ひ江名町白川醫院で手當中である、なほ善方は業務上過失傷害として取調を受けてゐる

佐藤訓導休職　湯本尋高校佐藤首席訓導は去年九月以來病床の人となつたが欠勤最大限の九十日を經過したので同町では此程の町會で同氏の休職内申方を決議した、

磐炭高坂坑遭難者弔慰金決定
坑夫千圓、役員約千五百圓

磐炭高坂坑變災死者四名に對する遺族扶助料其他に就ては事變突發後直に査定を開始し其間遺漏無きを期しつゝ全部の死体發見を待つて居たが此程各葬儀の終了と共に左記の如く決定夫々各遺族に贈る事となつた

坑夫　齊藤正義（扶助料八百八十圓，葬祭料香奠、健康保險給付金百二十圓外白米一俵）同增山謙吉同本間平次（扶助料八百圓以下同上）

現場員　佐竹廣治（扶助料千三百五十圓、外百九十圓）

母校へピアノ寄附
磐女同窓會の御慶事記念

磐女同窓會櫻丘會では過般催された總會で皇太子殿下御誕生記念事業としてピアノ一臺を母校に寄贈する事に決定、東京山葉樂器店に註文中であつたが此程着荷、今二日その組立を了したが來る六日の地久節當日にはこれが贈呈式を擧行す

平商送別會
けふ憶ひ出の催し

平商校では今二日午後一時より講堂に於て卒業生送別會を催したがプログラム左の如く中にも一年生の餘興勸進帳で俄扮裝の辨慶が『それつらつら惟みれば大恩敎主の秋の月……』と始めたには一同抱腹絶倒、世の荒波にほうり出される卒業生には意義ある一日であつた

開會の辭—四年木田英雄
送別の辭—四年小和田八十八、訓話—校長、謝辭—卒業生代表四家鉦、五分間のお話—關場修一郎、山田正直、松島精、餘興『勸進帳』—一年有志

了つて記念の撮影をした

新奉任三校長　郡下左記三小學校長は此程高等官八等待遇に榮進した

入山　岩堀宅次
澤渡　鈴木佐四郎
好間　吉田庄太郎

危い！幼兒の墜落
湯本の文男君遂に死亡

湯本町臺の山長屋居住要長男永久保文男（六）は去月廿一日午前十時頃自宅附近で遊戯中約二間の斷崖から墜落負傷これが爲破傷風を患つて居たが廿八日午前十時頃死亡した

第三校學藝會　明三日開催、水野縣視學の參觀訓話あり父兄其他參觀者多數の見込で盛會を豫想されてゐる、尚ほ七日には作山紫山氏の童話會を開くと

明後四日白井氏葬送
豫想さるる當日の盛儀

白井博之氏の葬儀は明後四日午後一時上小川村の自宅に於て佛式により執行さるるので各方面からの花輪、放鳥、其他供物の數々が兩三日來續々同邸に搬入されつつあり

島田政友會總務、淺野磐炭社長、山崎與三郎、安島元代議士、金成上院議員、佐藤、鈴木兩代議士等の名士が友人總代として斡旋する葬送丈けに同地空前の盛儀を豫想されてゐる

密獵　江名町仲の作二二漁夫吉田友太郎（三三）は同町折戸一六船生吉田豊太（三二）所有機船第二福田船の船長代理として去る一月二日午前十時五十分頃茨城縣久慈郡久慈町沖合の禁漁區域で底曳網漁をなし昨一日平區で中島判事より豊太は六十圓、友太郎は五十圓の略式罰金に處された、又植田町大字植田字金畑二四洋服商大貝善八（三七）は去る二月一日同字地内で無免許で引拔銃身空氣銃でむくどり一羽を捕獲、昨一日平區鬪口より略式罰金十圓

十丹　上遠野村大字上遠野字本町六四農上遠野彌一郎（五三）は去る一月十四日午後三時頃字仲の町木賃宿三浦長松方で田代文八等と十丹賭博をなし昨一日平區中島判事より略式罰金三十圓

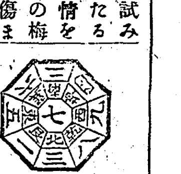
臥床から賽の河原へ
不注意から嬰兒窒死
若い母平署へ呼ばる

内郷村宮字竹の内炭鑛坑夫渡邊幸治妻イチノ（二二）は一日午前二時頃生後二十二日の長女サト子を睡眠中誤つて布團で鼻口を覆ふた爲窒死せしめ平署で取調中

鶴見總持寺貫主
栗山師推薦決定
來月一日正式に就任

曹洞宗管長大本山總持寺貫主秋野孝道禪師の遷化に伴ふ後任管長には既報の如く去る十二月大本山永平寺貫主に就任した秦慧昭禪師が宗規に基いて襲任したが總持寺後任貫主に就いては一昨二十八日本山幹部、地方宗會議員、主なる寺院職二十五名が芝公園内總持寺出張所に會合、協議の結果現本山西堂曹洞宗務院倚書前平町胡摩澤長源寺住職栗山泰音師を適任と認め來月一日正式に鶴見總持寺において同師を貫主として推薦することに決定した

因に前記總持寺は聖武帝天平年間（一三八九—一四〇九）行基が開創し諸嶽院と稱したが　後醍醐帝の元亨元年（一九八一）住持定賢律師が當時の名僧瑩山に歸依して遂に此寺を師に附して改めて曹洞宗の道場とした、それで瑩山が入つて之を中興して諸嶽山總持寺と號した正中元年法席を弟子の峨山に讓つた、正平六年（後村上帝の）峨山の五高弟が境内に各一院を開いてこの五院の住持が交替本院の住持となつた、天文九年（後奈良帝）の二月一宗僧侶位階昇進の事に關して永平寺と抗し爾來抗爭が絶へなかつた、天正十七年　後陽成天皇は勅して一宗の本寺とした、德川家康も本山として元和元年（後水尾帝）には永平寺と此寺に法度を下した、これから世人は永平寺を越本山、總持寺を能本山（能登國鳳至郡櫛比村）と稱した、明治三十一年四月火災に罹り灰燼に歸したので三十九年武藏國橘樹郡鶴見に移轉すると議が起り能登國信徒の反抗あつたにもかゝわらず決行して現在では横濱市鶴見區省線鶴見驛下車西へ二丁の所にある



舊一月十八日
土曜　癸酉　赤口　危　柳宿
新三月三日

諸判定應需
東京市本鄕區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神讃舘

▲一白の人　氣運吉なれども不相應の願ひは起さぬこと▲二黑の人　まごころに神宿る奮起して大功を奏するに至る▲三碧の人　二段がまえの方針にて物事を企つるがよろし▲四綠の人　失策を生ずれば是がため永く苦しむ事あり▲五黃の人　目的地には達するも餘分の廻り路をする日▲六白の人　一心の籠る所何事をもくわん徹すべき幸運の日▲七赤の人　富めりとて驕らず分に安ずるが基礎を固む▲八白の人　活氣次第に加はりて一家一門益々繁榮の日▲九紫の人　意氣消沈して目的の成功を期し難き衰運日

三日
日出　六、一〇　月出後　七、三二
日沒　五、三七　月沒前　六、四二
滿潮　前六、三五　後六、四〇
干潮　前〇、二五　後〇、三五

拜啓亡父庄作儀葬儀の際は遠路御會葬被成下且御鄭重なる御香奠を賜はり御芳情誠に有難御禮申上候、先づは取急御禮のみ如斯御座候　敬具

三月二日

男　和田二郎
親戚總代　清水好正

父久保田六五郎儀三月一日死去仕候に付生前辱知諸彥に謹告仕候

追て葬儀は來る三月三日午後一時自宅出棺九品寺に於て佛式相營み申可候

昭和九年三月二日
平町十五丁目三十番地

嗣子　久保田英雄
親戚總代　室田駒藏
西森正生
友人總代　關内正一
平澤勝次郎
袖山傳治

白井博之儀二月七日死去仕候に付生前の御交誼を拜謝し謹告仕候

追て葬儀は來る三月四日午後一時郷里福島縣石城郡上小川村自宅に於て佛式に依り相營み可申候

昭和九年二月廿八日

嗣子　白井一郎
親族總代　白井菊造
島田俊雄
友人總代　淺野總一郎
山崎與三郎
安島重三郎
金成通
佐藤庄太郎
鈴木辰三郎